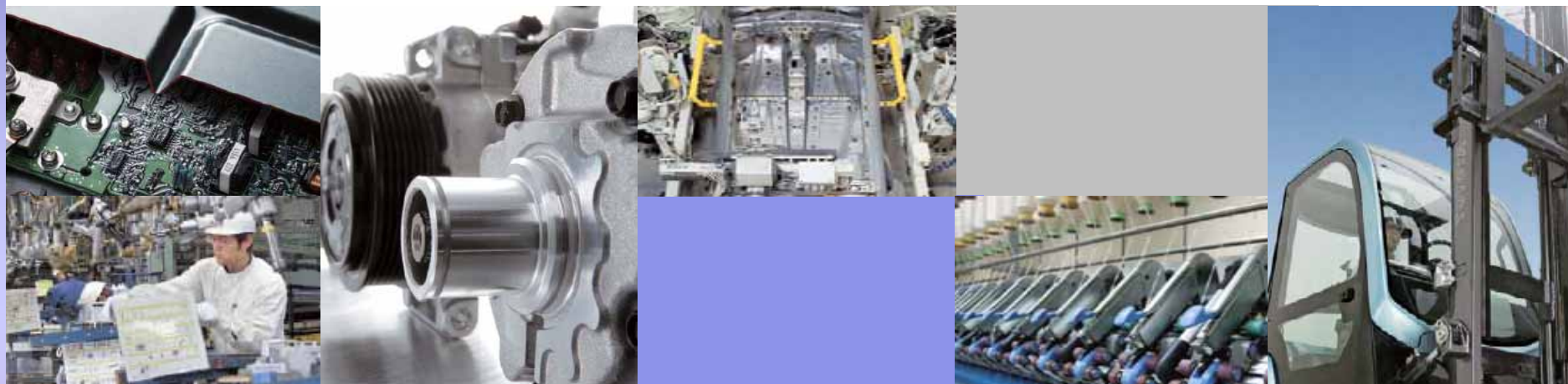


2008年3月期 決算説明会



2008年4月25日

株式会社 豊田自動織機

・決算サマリー

2008年3月期 決算実績

■ 9期連続で増収・増益

(億円)

	07/3	08/3	増減	増減率
売上高	18,783	20,005	+1,222 (+1,869)	+6.5% (+10.3%)
営業利益	899	968	+69 (+88)	+7.7% (+10.1%)
経常利益	1,084	1,264	+180 (+207)	+16.6% (+19.7%)
純利益	594	804	+210 (+222)	+35.3% (+38.2%)

()内は子会社決算期変更の影響を除いた実質の増減および増減率

2009年3月期 決算予想

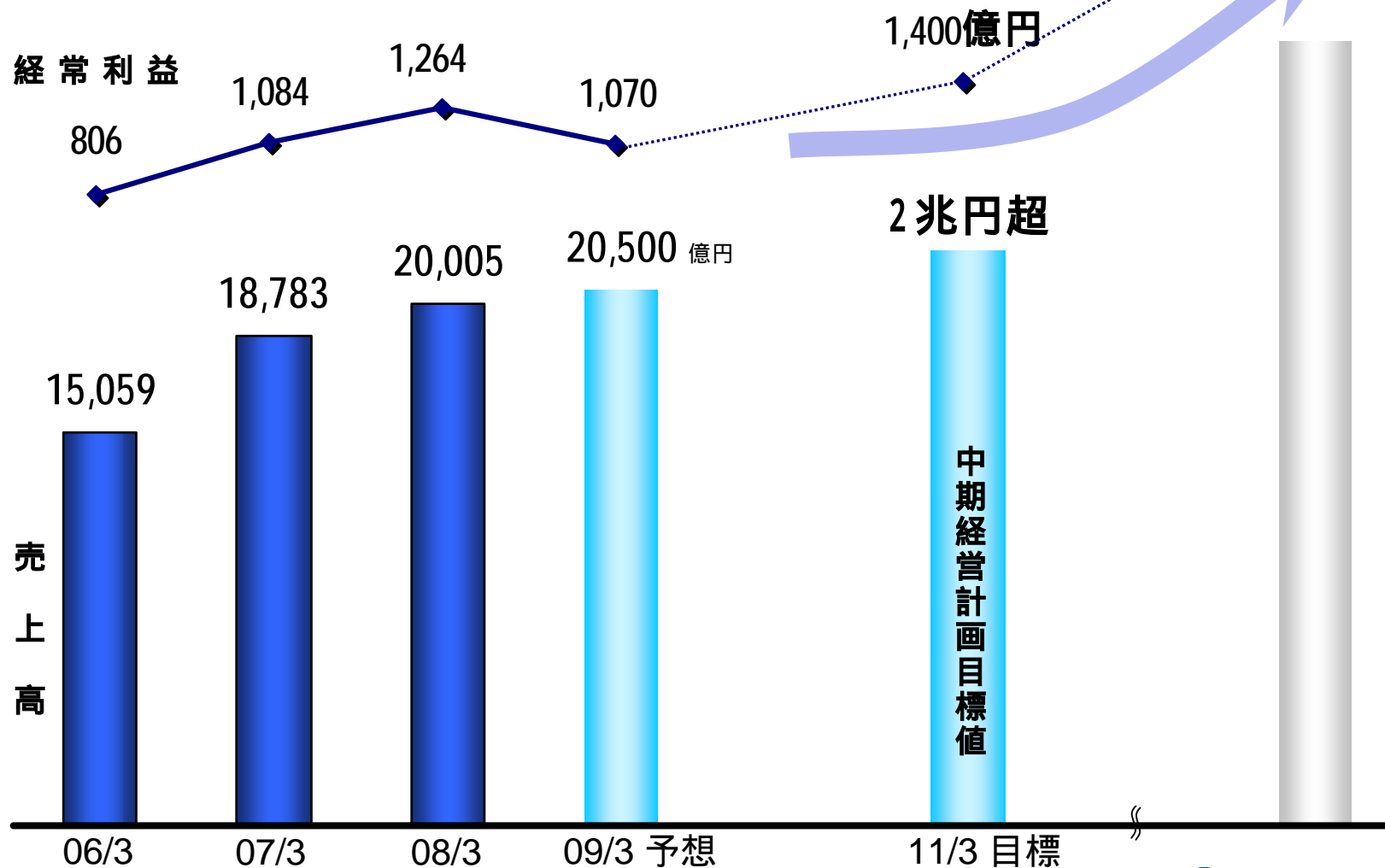
- 原材料高、米国景気後退、ドル安、減価償却制度変更の影響で減益を予想

(億円)

	08/3	09/3 予想	増減	増減率
売上高	20,005	20,500	+495	+2.5%
営業利益	968	770	198	20.5%
経常利益	1,264	1,070	194	15.4%
純利益	804	590	214	26.7%

中期経営計画の進捗

- 09年3月期業績は踊り場
中期目標を達成し、さらなる成長をめざす

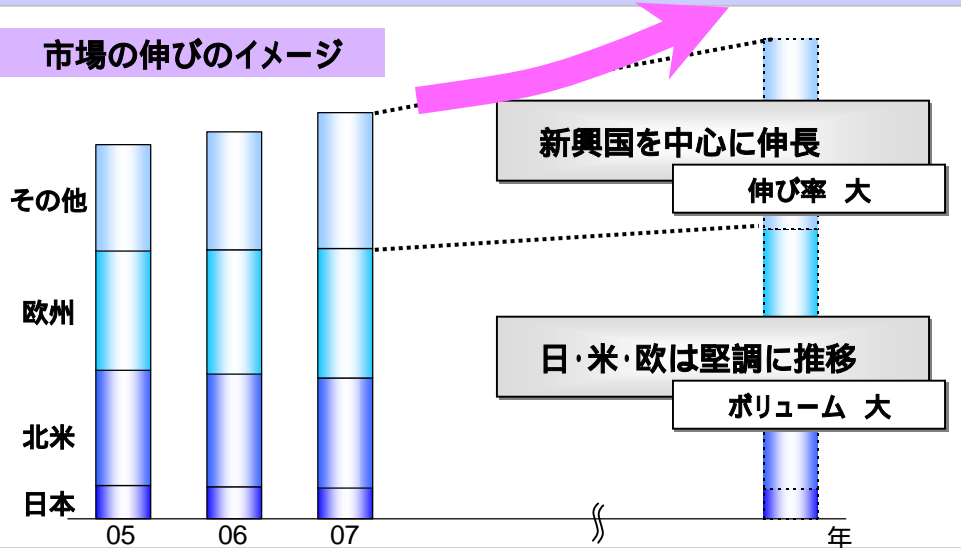


成長のシナリオ

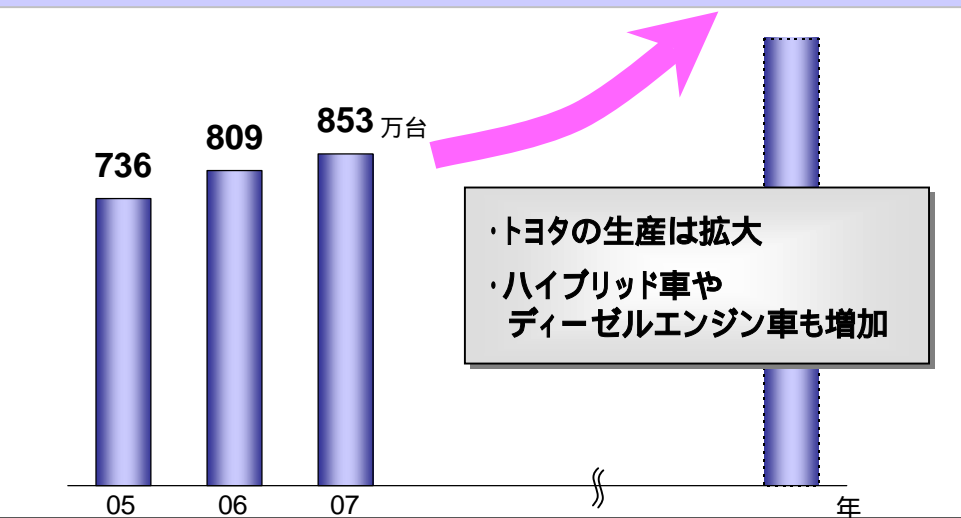
- 自動車
 - ✓ カーエアコン用コンプレッサー
 - ✓ 車両
 - ✓ エンジン
 - ✓ カーエレクトロニクス
- 産業車両

1. 自動車事業 - 事業環境 -

1. 世界の自動車市場



2. トヨタの生産台数



当社のビジネス・フィールド
は今後も拡大

カーエアコン用コンプレッサー

世界市場の拡大を
的確に取り込む

車 両

エ ン ジ ン

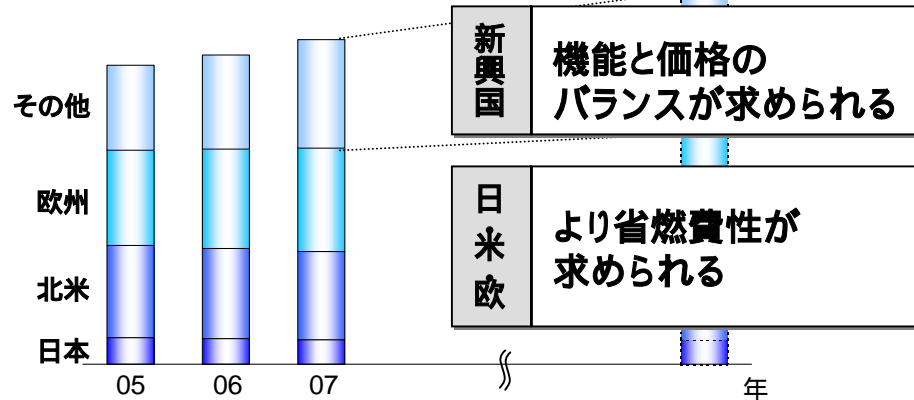
カーエレクトロニクス

トヨタの世界戦略に
貢献する

1. 自動車事業 - カーエアコン用コンプレッサー -

1. 事業環境

世界の自動車市場



2. 中期経営計画2年目までの 骨太 - 今後の成長の核 -

新規お客様の獲得

(万台)

販売台数	06/3	08/3
トヨタグループ	711	806
トヨタグループ以外	1,200	1,380

- 新規参入
フォード、プジョー
- 既納入先での搭載車種増加

グローバル生産体制の強化

TACG(米)、TDDK(独)、TACK(中)

3. さらなる飛躍に向けて

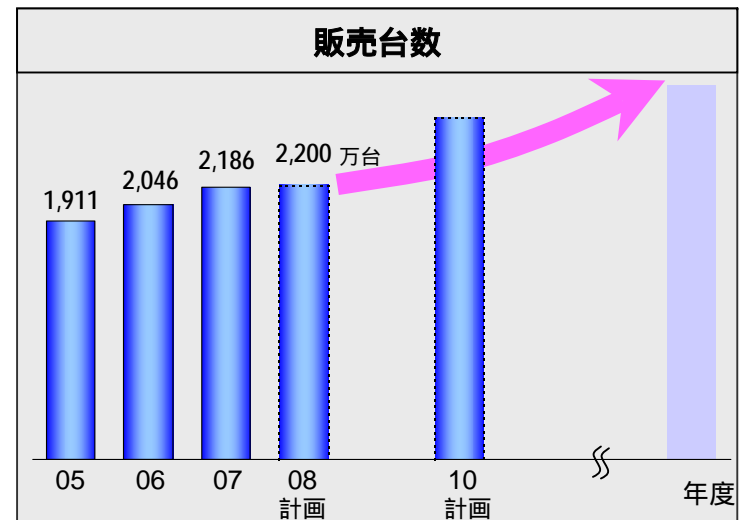
ニーズを反映した新商品での差別化と拡販

市場・車格に合わせた新商品の展開

- BRIC's向け、欧州小型車向け -

新技術でのアヘッド

新冷媒
電動コンプレッサー

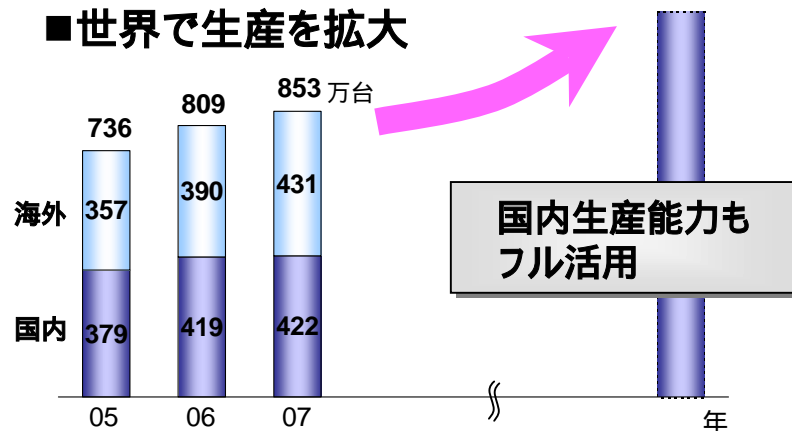


1. 自動車事業 - 車両 -

1. 事業環境

トヨタの生産台数

■ 世界で生産を拡大



2. 中期経営計画2年目までの 骨太 - 今後の成長の核 -

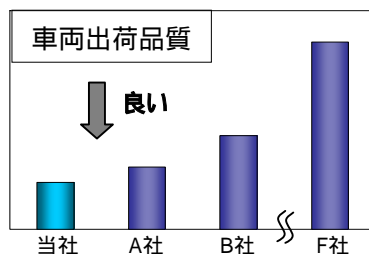
生産可能車種の拡大

コンパクトからミディアムサイズまで

Q・C・D No.1



品質管理優秀賞を連続受賞



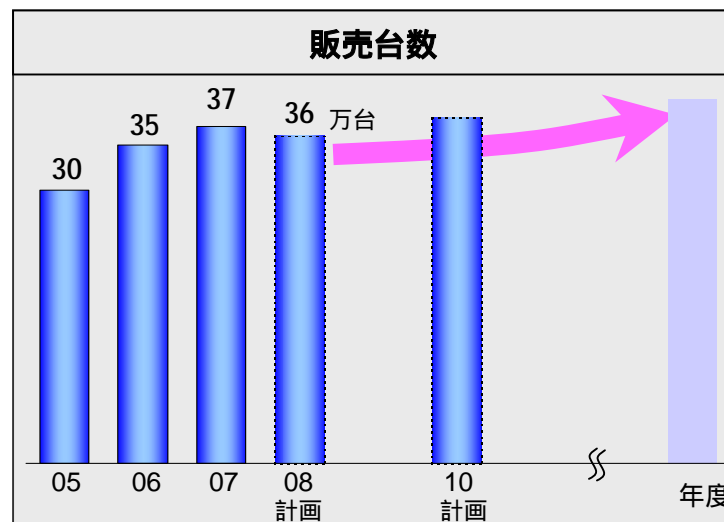
3. さらなる飛躍に向けて

量・車種ともにトヨタに貢献

フレキシブルな車種対応

Q・C・Dで

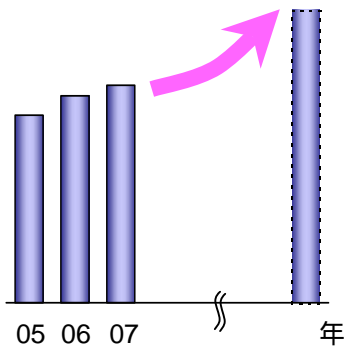
ボディメーカーをリード



1. 自動車事業 - エンジン -

1. 事業環境

トヨタの生産台数



車両増加に伴い
エンジンユニットも増加

ディーゼルエンジンを取り巻く状況

・環境規制 ・原油高騰

カーメーカーの開発・販売加速

ダイムラー

06年 日本

08年 北米(予定)

フォルクスワーゲン

09年 日本(予定)

ホンダ

09年 ~ 北米、日本(予定)

2. 中期経営計画2年目までの 骨太 - 今後の成長の核 -

クリーンディーゼルエンジンの開発

- AD型(05年)、VD型(07年) -

2007年度
技術開発賞
受賞

開発体制の強化 (実験棟、人員増強)

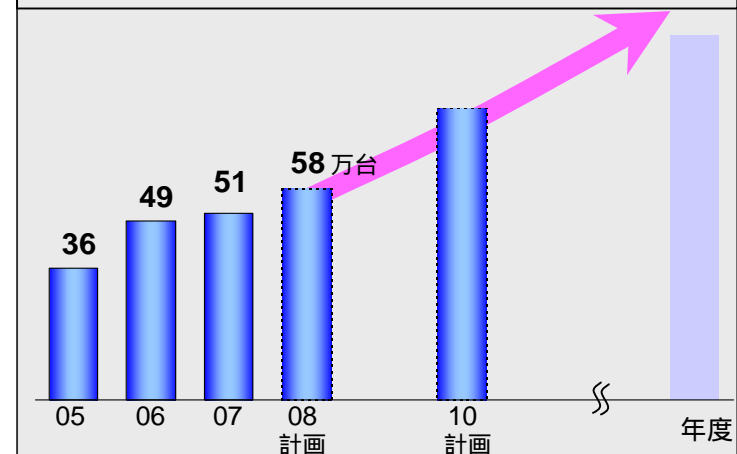
3. さらなる飛躍に向けて

クリーンディーゼルエンジン市場
拡大への確実な対応

次世代クリーンディーゼルエンジンの開発
タイムリーな能力増強

トヨタ国内生産高負荷に
対応した生産受託

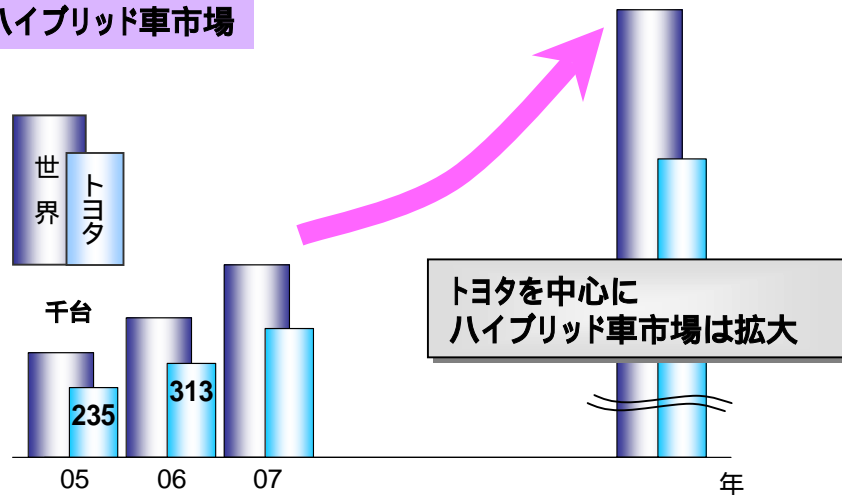
販売台数



1. 自動車事業 - カーエレクトロニクス -

1. 事業環境

ハイブリッド車市場



2. 中期経営計画2年目までの 骨太 - 今後の成長の核 -

DC-DCコンバーター搭載車種の拡大



プリウス
(97年～)



ハリアーハイブリッド
(05年～)



カムリハイブリッド
(06年～)



レクサスLS600h
(07年～)

2007年度
技術開発賞
受賞

トヨタへの開発提案による関係の強化

3. さらなる飛躍に向けて

小型・軽量・低コスト化技術
の確立と新商品の開発

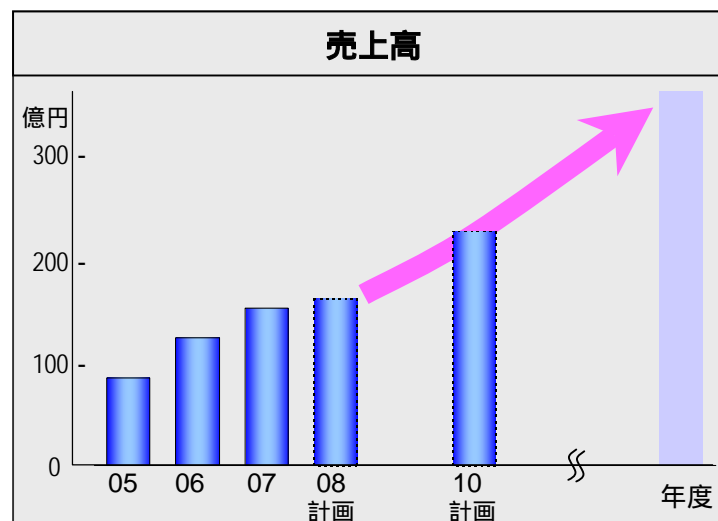
プラグインハイブリッド車用
機器の開発

チャージャー

東京モーターショー2007出品



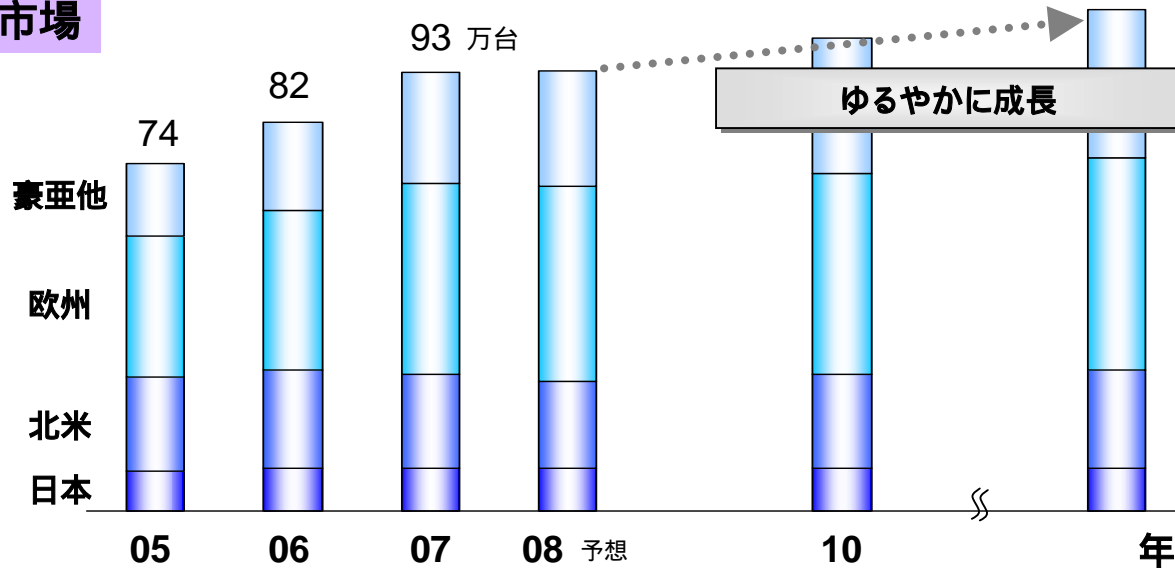
安城工場での量産体制構築



2. 産業車両事業

事業環境

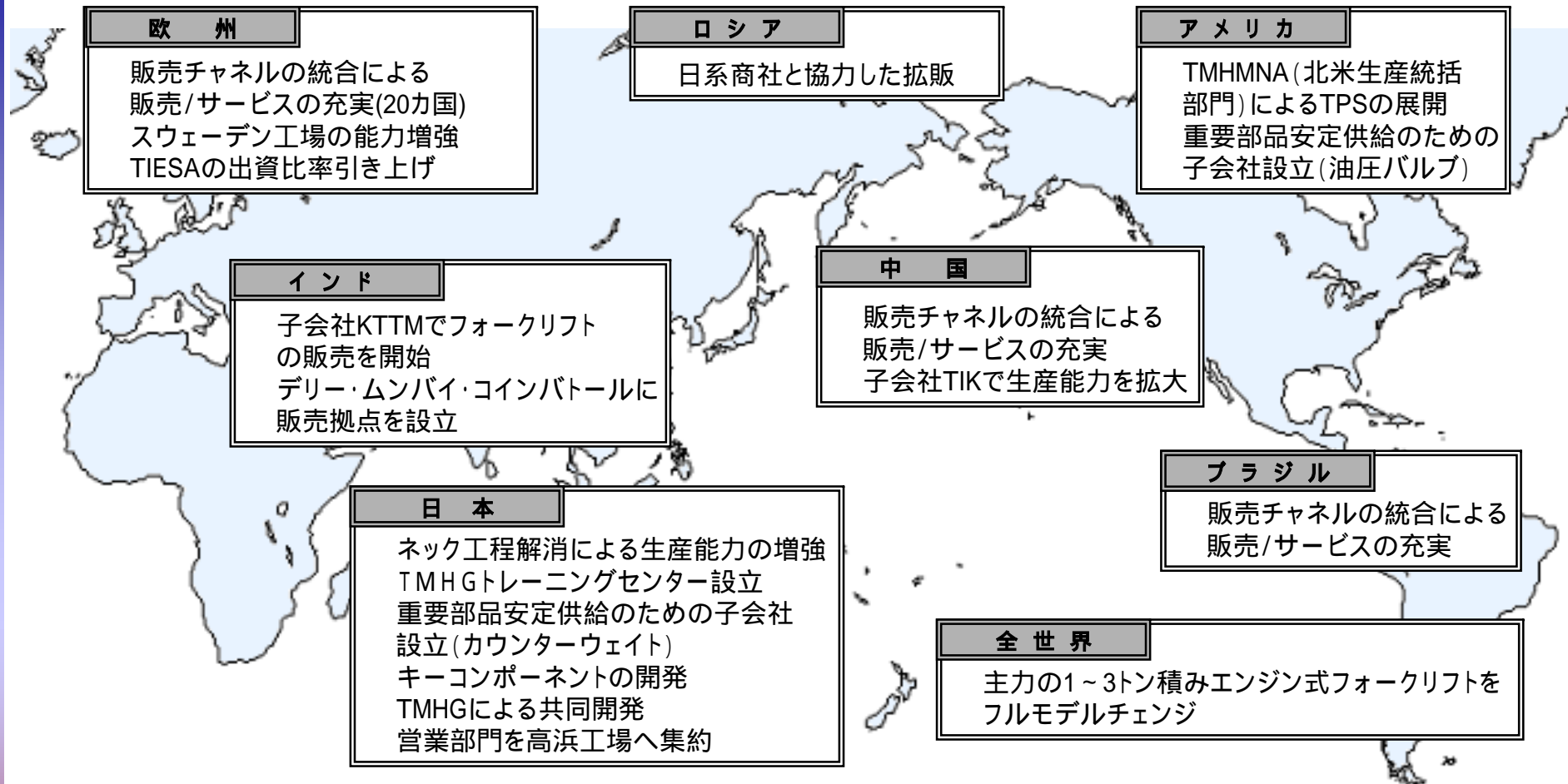
フォークリフト市場



日本	北米	欧州	豪亜他
<p>9万台 (07) / 10万台 (10年)</p> <p>ほぼ横ばい</p>	<p>20万台 (07) / 18万台 (10年)</p> <p>ほぼ横ばい</p>	<p>40万台 (07) / 45万台 (10年)</p> <p>ロシア・東欧が牽引し拡大</p>	<p>24万台 (07) / 34万台 (10年)</p> <p>中国・インドを中心に大幅に拡大</p>

2. 産業車両事業

中期経営計画2年目までの骨太 - 今後の成長の核 -

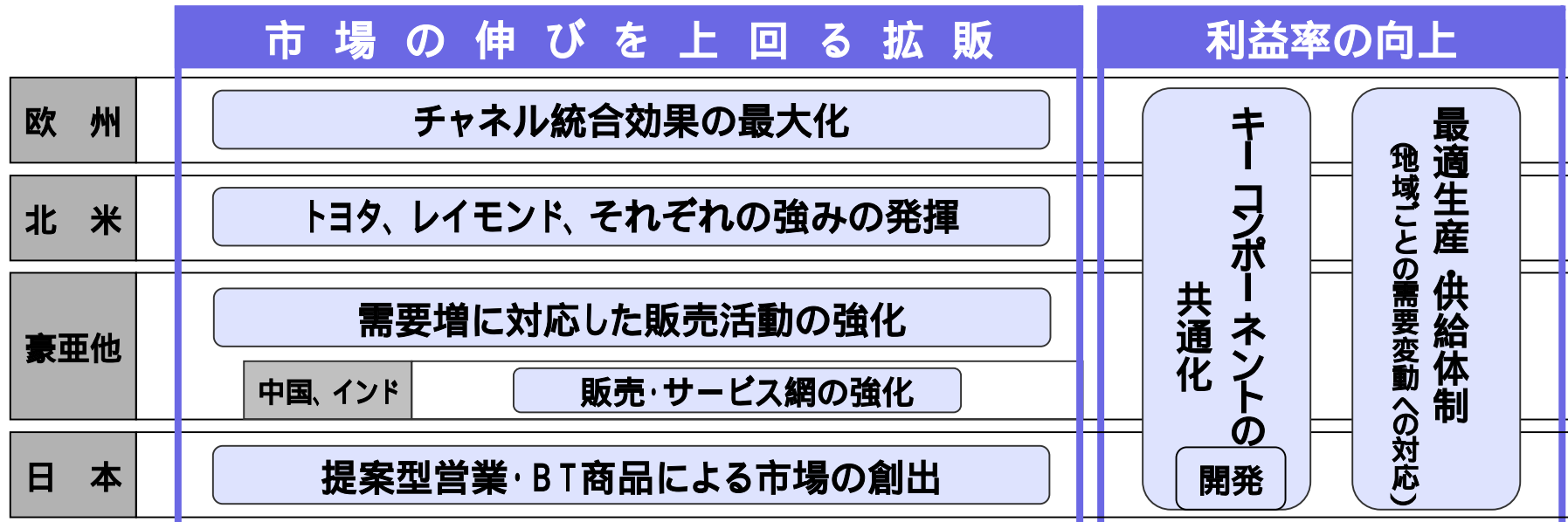


地域特性を考慮した開発・生産・販売・サービスの取り組みを推進

2. 産業車両事業

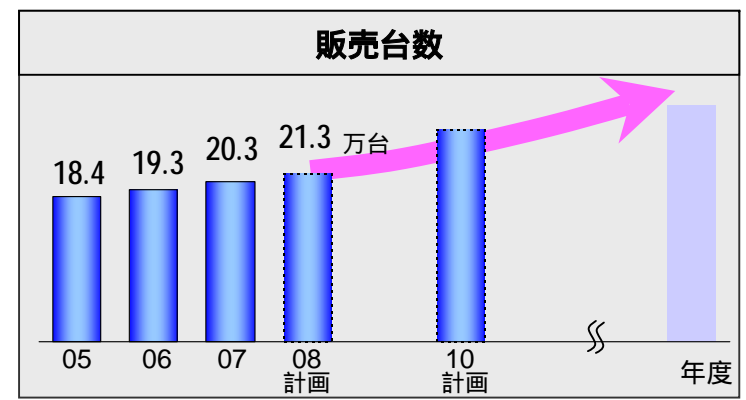
さらなる飛躍に向けて

- 昨年度までに行った諸施策を基に
この先、市場の伸びを上回る拡販と利益率向上を実現していく



既存市場でのプレゼンス強化と
新興市場での販売網拡充

トヨタとBTのシナジーの加速



・環境と人材育成の 取り組み

環境

取り組み方針

グローバル環境宣言



豊田自動織機グループ
連結で環境経営を実現

第4次
環境取り組み
プラン
(2006-2010年度)

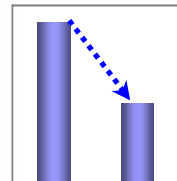
地球温暖化防止
資源循環
環境リスク低減
マネジメント

製品分野での取り組み

(1) エアジェット織機
(03年2月)



エア使用量
50%削減



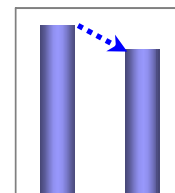
従来 新型

(2) エンジン式フォークリフト
(06年9月)

GENEO



燃料使用量
14%削減



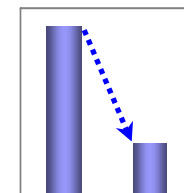
従来 新型

(3) 電動パワーステアリング用
DC-DCコンバーター (07年4月)



LEXUS LS600hへの搭載製品

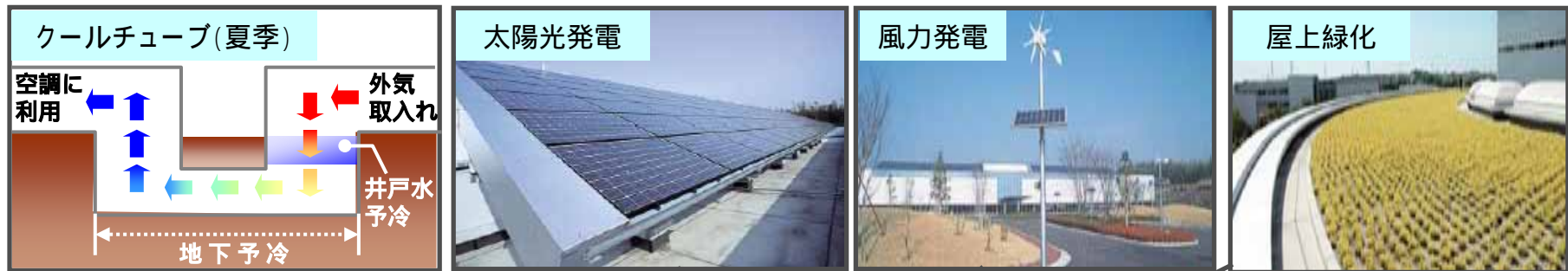
鉛使用量
69%削減



従来 新型

生産分野での取り組み

工場建設時の環境対策の織り込み



【中部経済産業局長表彰(07年度)】



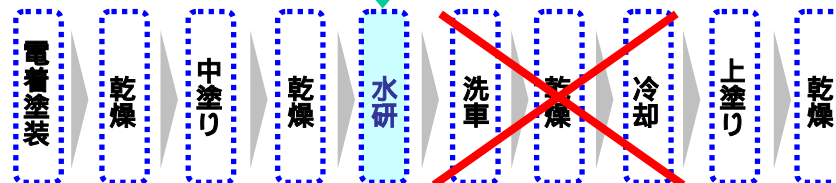
【日本環境経営大賞(07年度)】

環境プロジェクト賞
 “鋳鉄使用量低減による
 CO₂排出量低減”

生産プロセス改善による省エネの推進

自動車塗装工程での新工法導入

省エネ優秀事例
 全国大会 経済産業
 大臣賞



ナフカット工法の新規導入により
 後工程(洗車プロセス)を廃止

人材育成

固有技術

全体の底上げをはかる



G型自動織機の組み立てによる豊田佐吉の設計思想や、失敗事例による着眼点の教え込みなど、現物での教育を実施

エキスパートを育成する



技術技能ラーニングセンターでは、先端の技術・技能を徹底して教え込み、ものづくりのトップガンを育成

和の心

一体感、チームワークを醸成する



スチュワード制度など先輩からのOJT指導で密なコミュニケーションを促進

ユニバーサル技能五輪大会
金メダル獲得 (07年11月)

機械組み立て職種の日本代表として
出場し、金メダルを獲得

技能五輪全国大会
金メダル3つ獲得 (08年3月)

5職種に7名+2組が出場し、金メダル3つ、
銀メダル3つ、銅メダル1つを獲得

管理技術

問題を発見し、改善する力をつける



各事業部から「TPS道場」に集い、継続的な改善活動でものづくりを推進できる人材を育成

人をまとめる力をつける



「わかりやすく的確な仕事の教え方」や、「よい人間関係・活気ある職場づくり」の研修を通し、人をまとめる力を育成

. 決算詳細

2008年3月期 決算実績

■ 9期連続で増収・増益

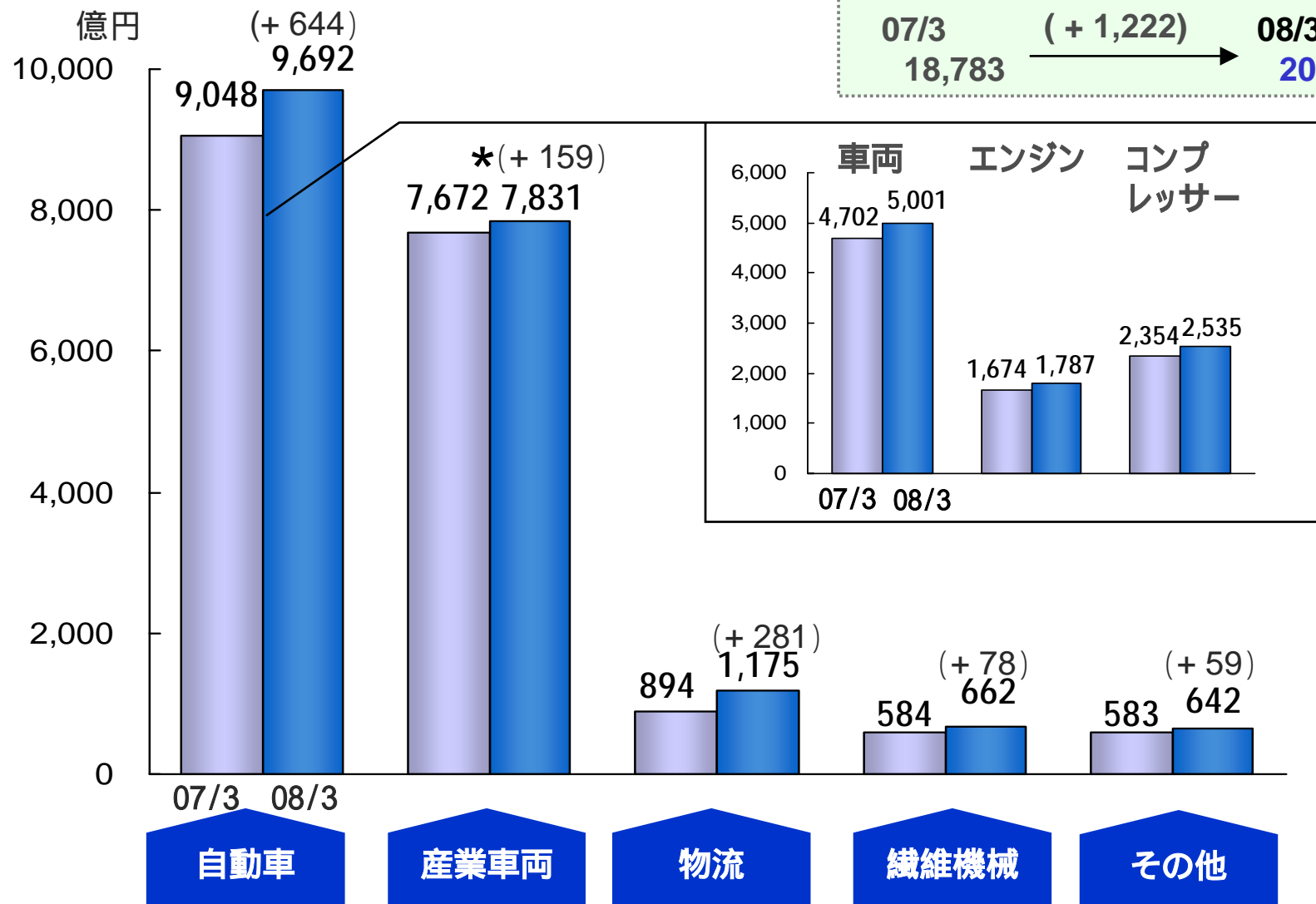
(億円)

	07/3	08/3	増減	増減率
売上高	18,783	20,005	+1,222 (+1,869)	+6.5% (+10.3%)
営業利益	899	968	+69 (+88)	+7.7% (+10.1%)
経常利益	1,084	1,264	+180 (+207)	+16.6% (+19.7%)
純利益	594	804	+210 (+222)	+35.3% (+38.2%)

()内は子会社決算期変更の影響を除いた実質の増減および増減率

事業別セグメント売上高 2008年3月期 決算実績

■ すべてのセグメントで増収

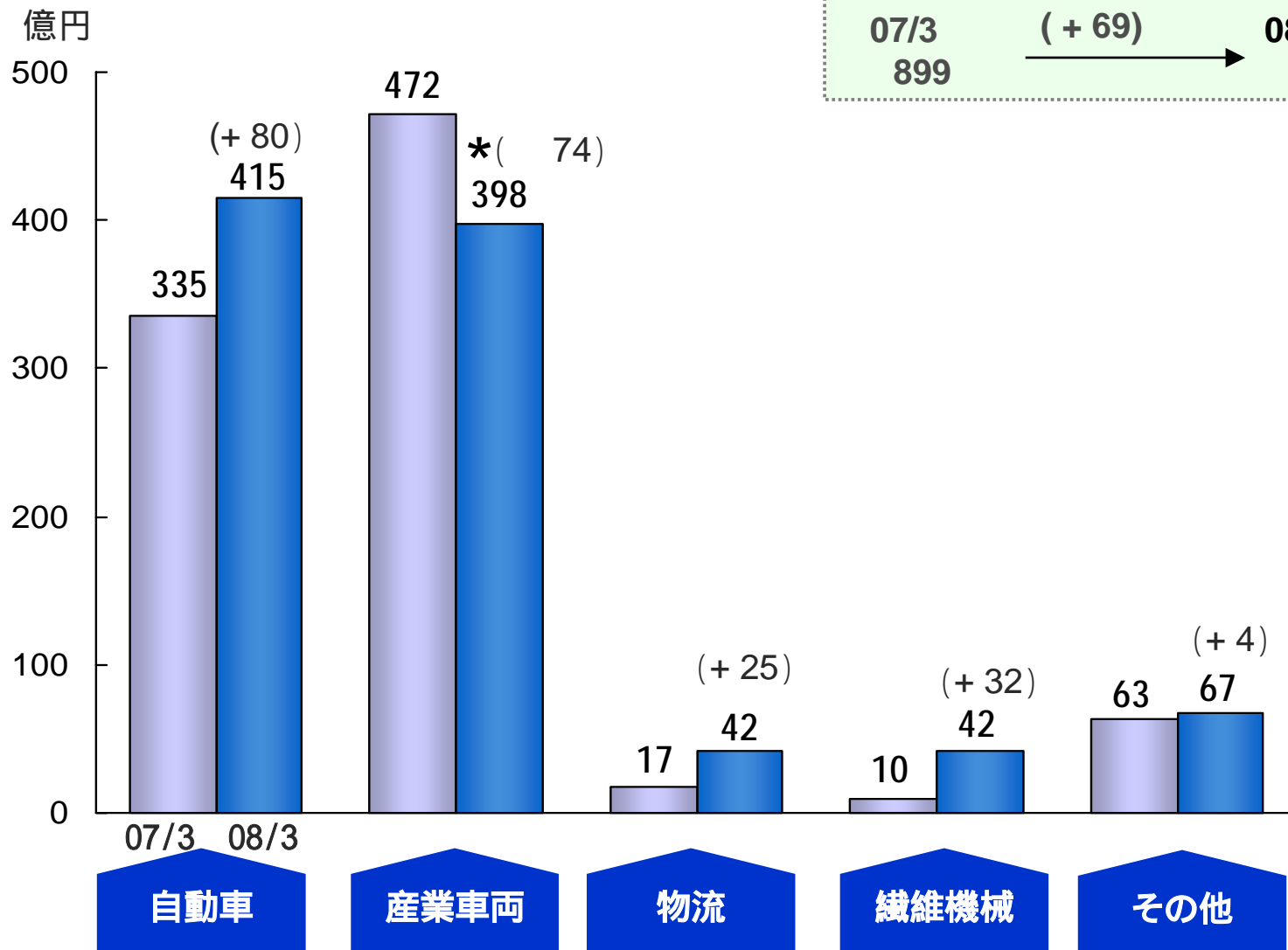


07/3 18,783 → (+ 1,222) → 08/3 20,005

* 子会社であるトヨタ インダストリーズ スウェーデングループの決算期変更の影響を除いた07/3期売上高は7,025億円で、806億円の増加

事業別セグメント営業利益 2008年3月期 決算実績

■ 自動車、物流、繊維機械のセグメントで増益

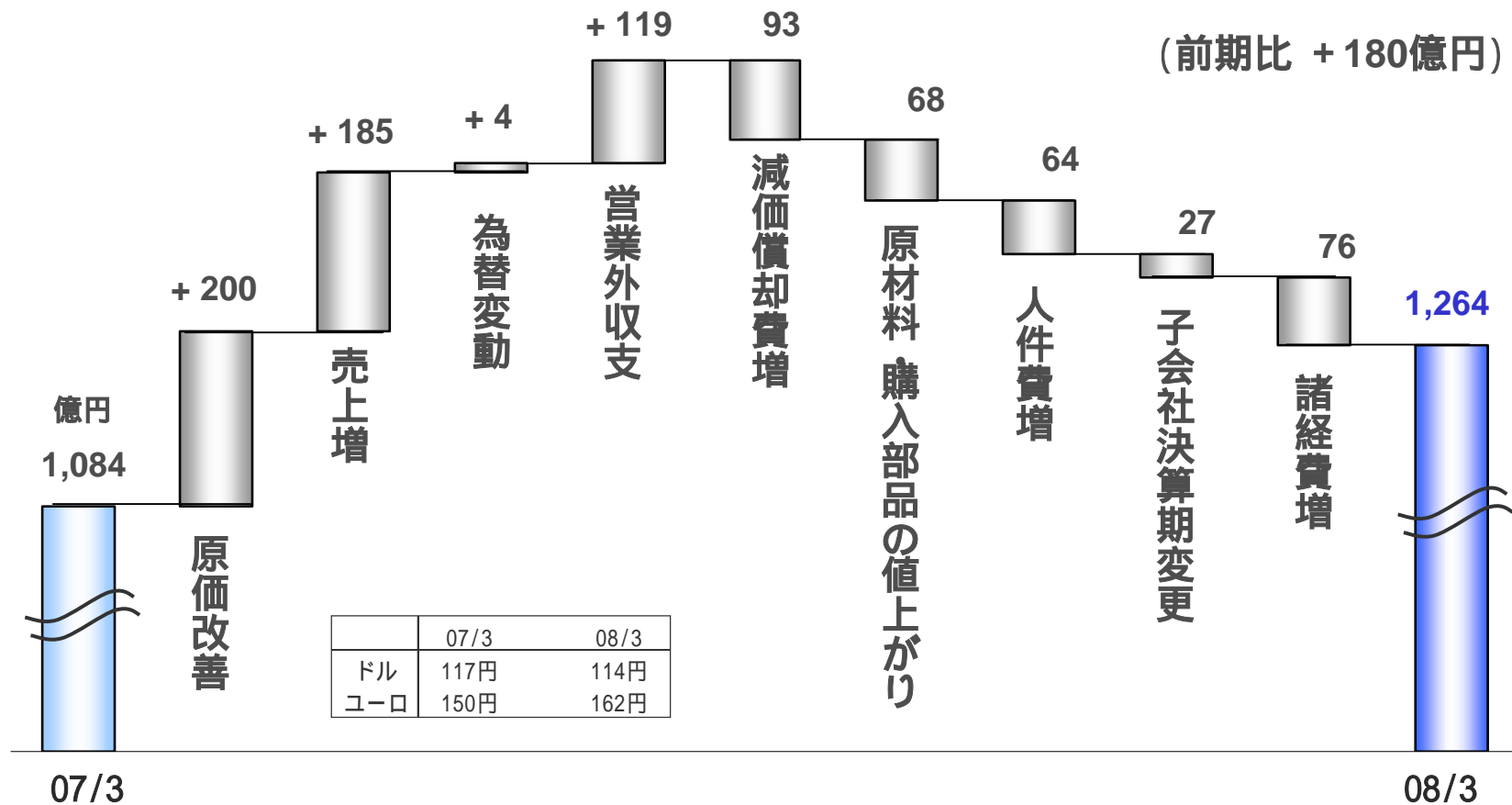


* 子会社であるトヨタ インダストリー・システムズグループの決算期変更の影響を除いた07/3期営業利益は453億円で、55億円の減少

経常利益の増減要因 2008年3月期 決算実績

- 原価改善、売上増などにより、減価償却費増、原材料・購入部品の値上がりなどをカバー

(07/3と08/3の比較)



2009年3月期 決算予想

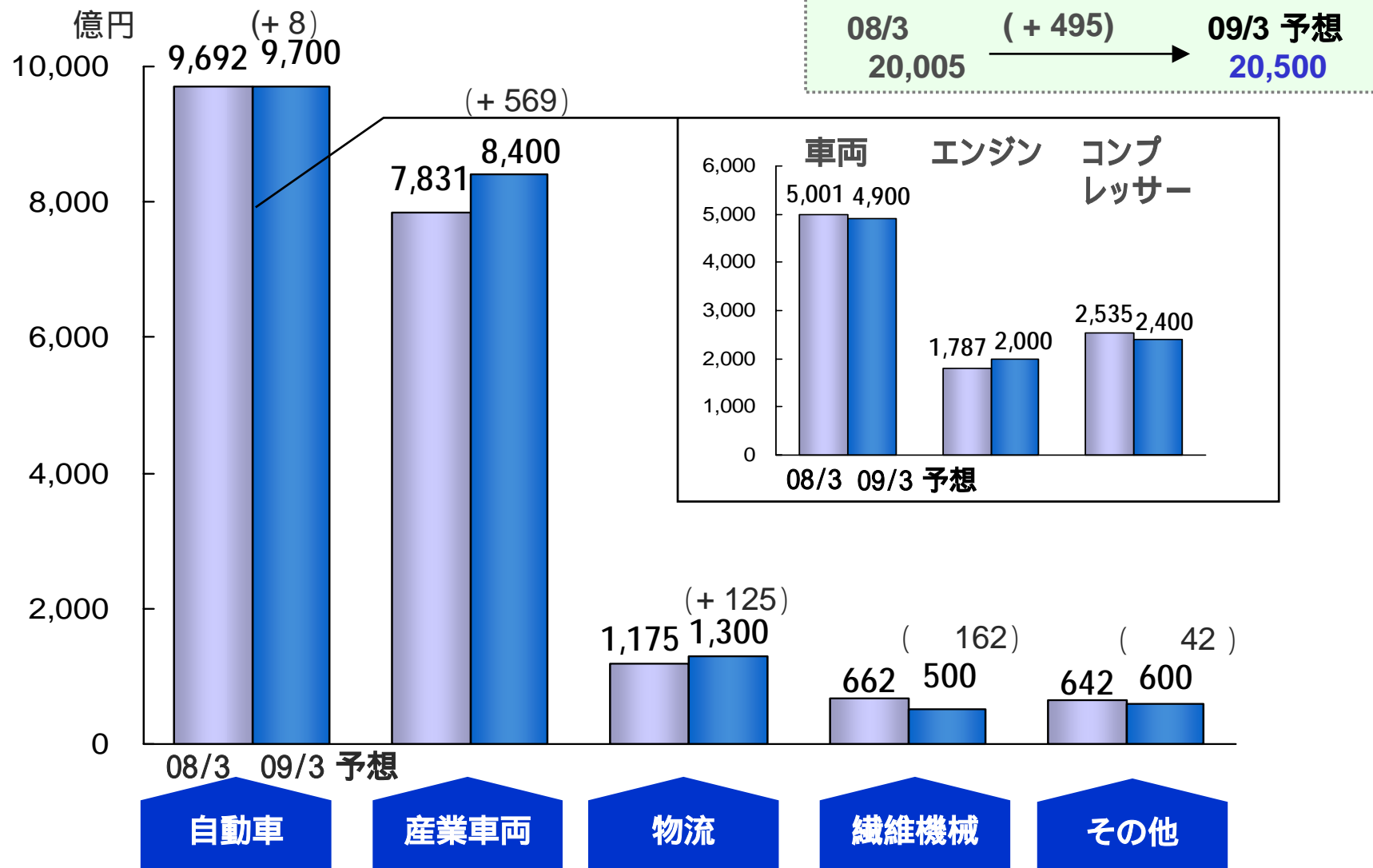
- 原材料高、米国景気後退、ドル安、減価償却制度変更の影響で減益を予想

(億円)

	08/3	09/3 予想	増減	増減率
売上高	20,005	20,500	+495	+2.5%
営業利益	968	770	198	20.5%
経常利益	1,264	1,070	194	15.4%
純利益	804	590	214	26.7%

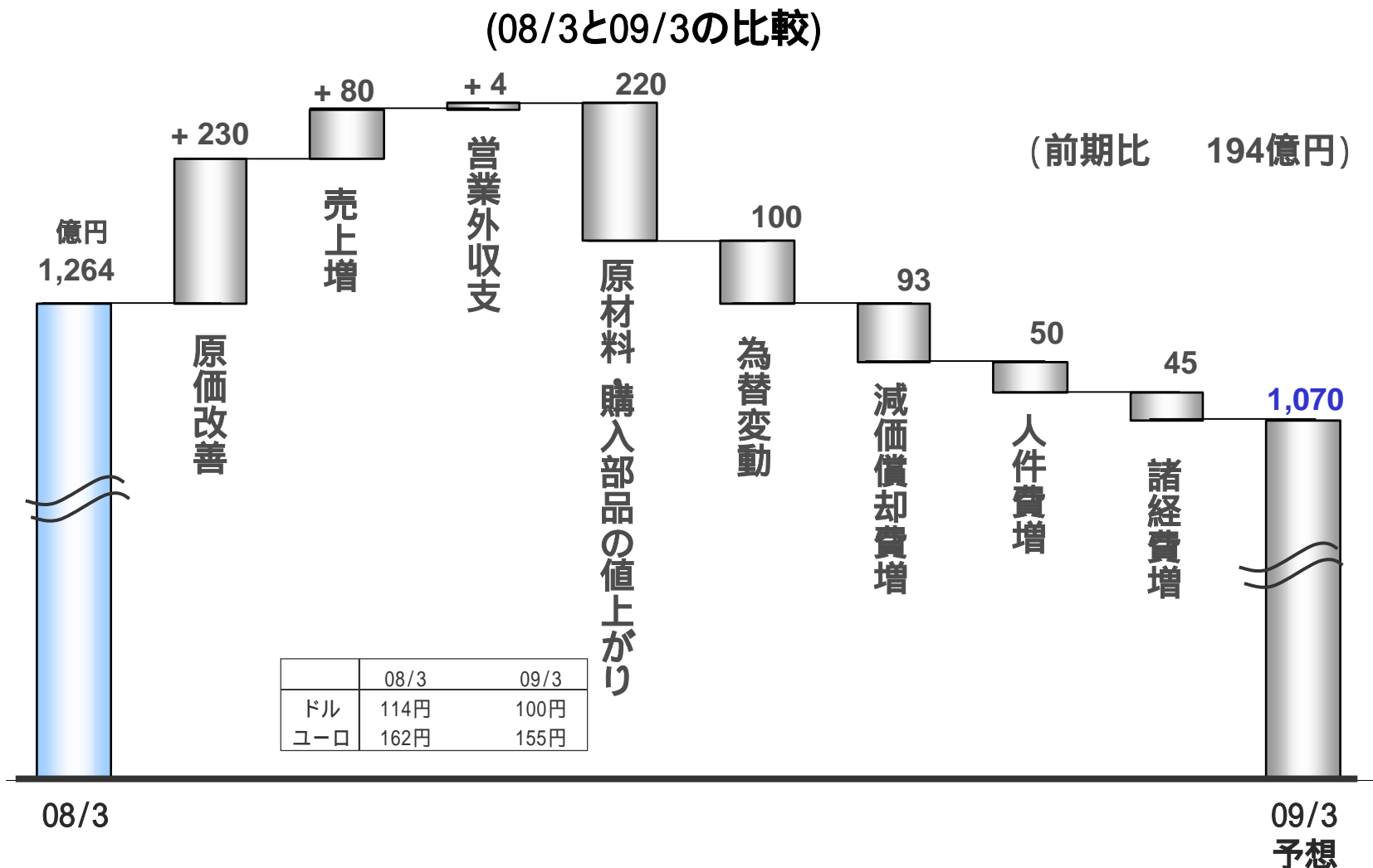
事業別セグメント売上高 2009年3月期 決算予想

■ 産業車両、物流のセグメントで増収の見込み

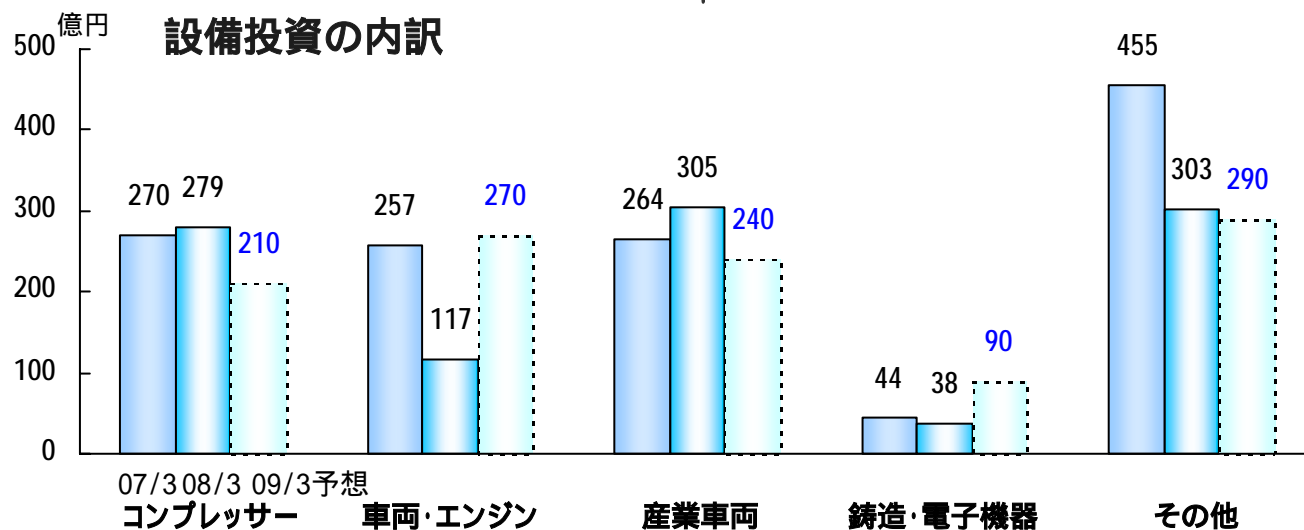
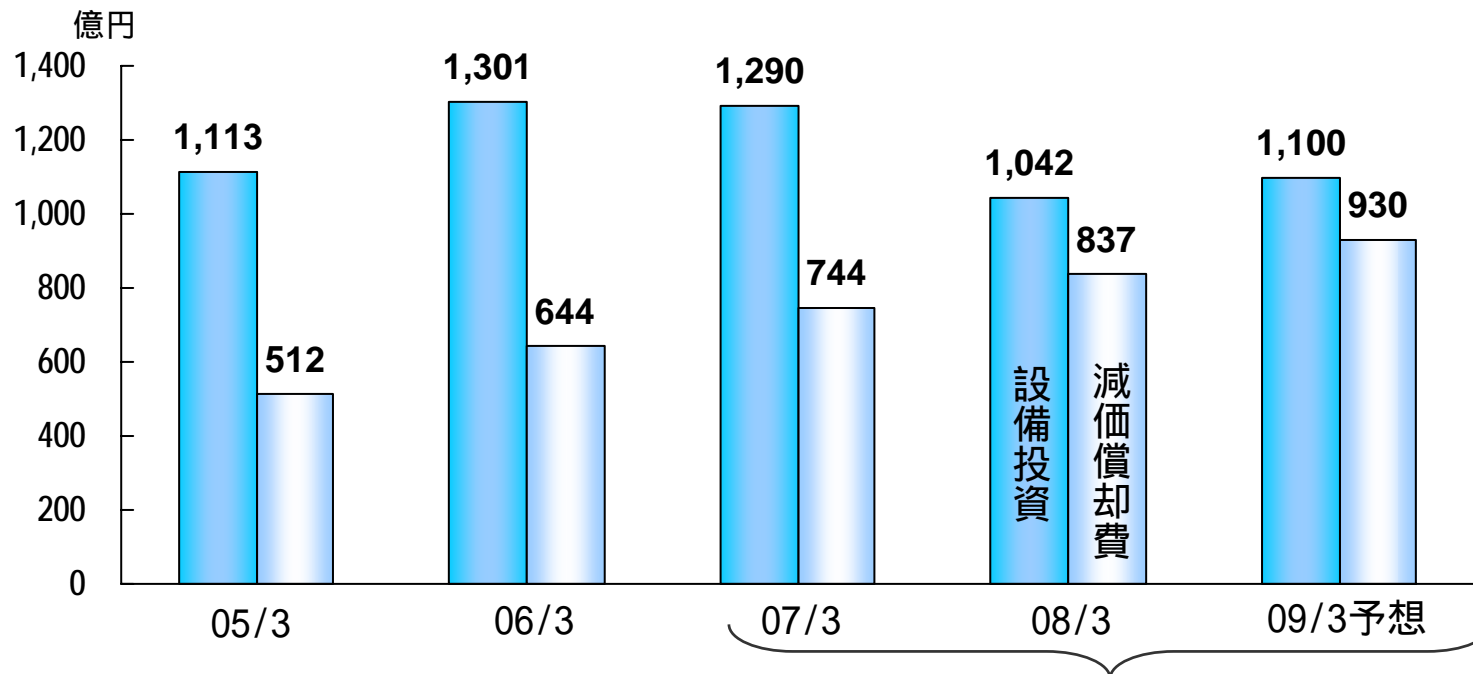


経常利益の増減要因 2009年3月期 決算予想

- 原材料・購入部品の値上がり、為替変動、減価償却費増が大きく影響

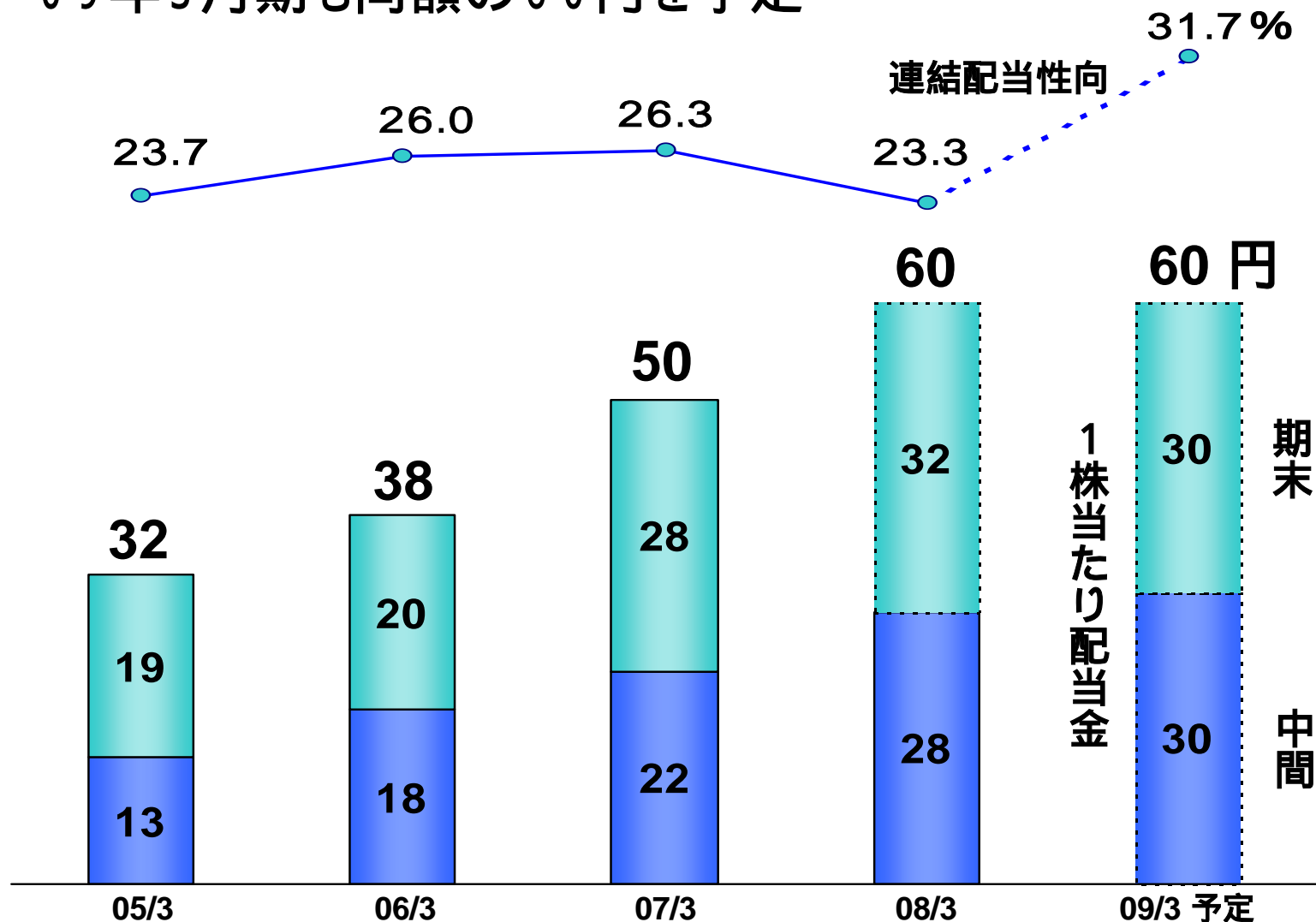


設備投資・減価償却費



配当金・配当性向

- 08年3月期、年間で1株当たり10円増配の60円、09年3月期も同額の60円を予定



将来見通しに関する記述についての注意

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。したがって、これらの業績見通しのみで全面的に依拠することは控えてくださいますよう、お願いいたします。

実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実性には、当社の事業を取り巻く経済情勢、さまざまな競争圧力、関連法律・法規、為替レートの変動などを含みます。

ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。